

## 第2回 セルフジャッジ講習会 報告書

### 1. 開催概要

日 時：令和7年7月12日

場 所：相模原市 ギオンアリーナ中体育館

参加者：約40名

主 催：相模原市バウンドテニス協会

講 師：佐藤（利） 佐藤（初） 大橋

### 2. 講習内容

#### ① はじめに

- ・ごあいさつ・講習の目的

「正しいセルフジャッジは、フェアな試合の第一歩」

「勝ち負け以前に、“人として”信頼されるプレイヤーに」

#### ② セルフジャッジとは何か

- ・審判がいない試合で、選手自身が判定を行うシステム
- ・世界中の草トーナメントや学生大会で主流
- ・バウンドテニスでも相模原で導入事例を作りたい

#### ③ 基本ルールと優先順位

- ・自コートの判定は自分が責任を持つ
- ・相手のコートは干渉しない
- ・『インかアウトか分からなければ、インとする』が原則
- ・アウトの場合は即座に声とジェスチャーで明確に
- ・相手のミスに見えても自分が見ていなければ『わかりません』でOK
- ・意見が割れた場合は『最初の判断を優先』
- ・解決できない場合は主催者・運営に相談

#### ④ セルフジャッジとモラル

- ・ありがちなトラブル：微妙なボールを全部アウトにする／相手のジャッジを疑う／威圧する態度
- ・正しいあり方：自分がされたらイヤなことはしない／勝つためにルールを曲げない／試合後も挨拶できる関係

#### ⑤ セルフジャッジのコツと習慣

- ・練習からアウトの声出しを徹底
- ・ダブルスではパートナーと確認し合う
- ・迷ったら『OK！ナイスショット』で済ます勇気

⑥ まとめ・質疑応答

- ・セルフジャッジはその人の人間性が出る
- ・勝ちよりも大切な信用を得るチャンス

**3. 参加者の声（抜粋・ランダム）**

- ・ジャッジに気を取られプレイに集中できないことがあったので、慣れるまでもう少し経験を積みたい
- ・プレイヤー同士でコミュニケーションをとりながら試合をするので親睦大会には向いている方式だと思う
- ・大きなトラブルもなく上手くいったと思います
- ・声と一緒にジェスチャーもしてくれるとわかりやすいと思った
- ・スコアボードがあると試合に集中できて、スコアの間違いが起きづらい
- ・オーバーネットのジャッジは難しいと感じた
- ・セルフジャッジはフェアプレー精神が問われると実感した
- ・声が聞こえないことがあったので、イン・アウトやカウントはみんな声を大きくすることを意識したい
- ・平和に進行できたのが良かった
- ・フェアプレーと勝ちへのこだわりが色濃く出ると感じた

**4. まとめ**

今回の講習会では、セルフジャッジの基本ルールやマナーを共有し、実践形式で試合を行いました。参加者からは、声やジェスチャーの重要性、スコア管理の工夫、オーバーネット判定の難しさなど、実際の試合運営に役立つ多くの意見が寄せられました。全体的に大きなトラブルはなく、フェアで円滑な進行ができたことが確認できました。今後も練習や大会でセルフジャッジを継続し、さらなる浸透とレベルアップを図っていきたいと思います。